

項目 1、2

<p>第1回町史編さん審議会で、編集方針を巡る基本的議論がなされるものと思っていた。 〈A 委員〉</p>	<p>前回の審議会で「編さん基本方針(案)」を示し、今回の審議会において編集方針及び目次構成(案)を協議事項としています。「通史編」「分野別編」という異なる記述スタイルによる構成は、自治体史の構成としては一般的で、近年では読者の視点を踏まえた読みやすさという点などから、写真やグラフなどを多く取り入れる自治体が増えている傾向にあり、本町もこのスタイルを案として示しているところです。</p>
---	---

項目 4

<p>「エポックメイキングとなる大火」歴史的出来事としての大火は、大火後の歴史を理解する上で、重要なものなので、トピックスとしてではなく、通史の一番初めにあるべきなのではないかと思えます。したがって、第一部通史編は「昭和29年(1954)」からの記述にした方がよい。〈B 委員〉</p>	<p>今度の町史は、現代史の「続編」という位置づけから、記述年上はS30からとなりますのでご理解願います。しかし「岩内大火」については、資料もあり、本町にとって大変重要な事項であることから、プロローグ・トピックス・分野別の防災などで、体験談なども織り交ぜながら、触れていきたいと考えています。</p>
---	--

項目 5

<p>対象となる範囲は「大火後」とされ、それ以前は「プロローグとして4ページ程度で記述する」となっています。私はこの点に強い違和感を感じております。大火後の岩内という「現代史」に重きを置くという方針そのものには異存ありませんが、幕末から明治維新、日清・日露戦争、第一次世界大戦とシベリア出兵、満州事変と第二次世界大戦、朝鮮戦争と戦後復興など、世界史的激動の中で引き継がれてきた岩内町民の歩みは到底4ページでまとめきれない(少なくとも20ページは必要でしょう)。プロローグを充実させることで、「本末転倒」どころか、体裁上も首尾一貫したものとなるのでは。岩内町教育研究所が編纂し、教育委員会が刊行した「岩内の歴史」が参考になります。〈A 委員〉</p>	<p>プロローグについては、どこまで詳しく記述するかの議論はあるとおもいますが、「通史」・本編への導入部という意味合いや、スムーズに本編に入れる読みやすさを踏まえたページ数である必要があると考えています。前史からの繋がりについては、通史編や分野別編などの記述に関連させて幅広く表記ができるよう検討していきたいと考えております。</p>
<p>「前史に当たる部分について詳述しない」→詳述は難しいですね。しかし「新岩内町史」に繋がるものとして、「前岩内町史」の刊行の詳細および、6版に及ぶ「岩内史年譜」刊行の概要については序章の中に詳述し、「古来から歴史は繋がっている」という意味合いを明確にしたい。 〈B 委員〉</p>	

【B 委員】

検討の枠の中で、前史からの繋がりについて、「幅広く表記ができるよう検討」するとありますが、具体的なページ数がもう、決まってるんですか。4ページにしかならないということなんですけども。

【事務局／切明】

ページ数、量というのは、資料（の有無、分量）にもよりますし、（現時点では）決まってはいませんが、事務局の案としては、通史編で、年度ごとの歴史が2ページから4ページ。分野別編も、4ページといったボリューム感になります。その枠・文脈の中で、たとえば大火について、触れられるかなと考えています。

【B 委員】

（基本的に）4ページくらいになるということですね。

【事務局／切明】

そうです。

【B 委員】

意見としては、もう少し（紙）幅をとっていただきたい。内容をちょっと濃くしていただきたいとおもいます。それと、ここにも書いてありますが、前の岩内町史とか、今度の新しい岩内町史以前のものについても、詳述いただきたいということを、重ねてお願いしたい。

【A 委員】

やっぱり新しくなるまでに、これまでに編まれた、歴史のこと、年譜だとかいろんなもの、そうしたものに、ある程度触れないと、継承性や積み重ねというか、それが明らかでないし、郷土館がもってる役割などを考えると、郷土館が今まで通じた一つの意味というのを、いろんな資料の継承性ということていくとね、ある程度触れておかないと、繋がらないんじゃないかな。

【B 委員】

そうなんです。あとから調べるときに、昭和30年以前のことを知りたい人は、どこを見ればいいのかということが、わかるようなものにしてほしいということです。

【事務局／村山】

タイトルについては、何になるかわかりませんが、今回検討されようとしている「岩内町史・続編」については、昭和30年以降というコンセプトがまず、前提としてあるということなんです。そのうえで、29年以前については、「概要」としての扱いで、プロローグにおさめたいとおもっています。ですから、佐藤（弥十郎）さんの岩内町史の部分も関係してくるとおもいますが、「通史」であるということ、「30年以降」であるということ——ここは基本的な部分と考えています。

必要性は確かにあるとおもいます。何かを調べたたくても、佐藤・岩内町史ではどうにもならない部分もあるでしょうし、年譜だけではちょっと、十分ではないところも確かにありますが、今は、30年以降の「続編」という、まずは67年の空白を埋めたいということです。そんな中でも、たんなる年代史じゃない、特に残しておかなければならないところについては、トピックスとしてきちんと残していくというのが、基本的なコンセプトになると考えています。

【ぎょうせい／徳島】

この意見書を頂戴したときに、「岩内大火」って大事なんだって、すごく感じたんですけど、まとめ方については、いろいろあるかとおもっていて、事務局が、今、考えてるコンセプトは、通史編と分野別編ということで、通史編では全体を理解し、分野別編では詳しく把握するという、新しい町史を考えているんですね。

ページ数に関しては、プロローグとして、4ページですけど、たとえば岩内大火が、どういうところに関連してくるかというふうに考えたとき、通史編にも、もちろん入ってくるし、分野別編では、「復興」のところに関わってくるおもってます。それと、文化的な面も、おそらく関係してくるのではないかと考えてまして、「大火」という大きなトピックスに、50ページ割くのは、さすがに厳しいですけど、各分野では間違いなく、3～4カ所に入ってくるんじゃないかと、資料を拝見した限りですけど、感じています。ですので、プロローグのところでは、岩内町の紹介があるので、ここで大火の話に触れるのは、絶対必要だとおもっていて、触れ方、ページをもっと多く、という意見を伺ったので、正確なことはいえないんですが、3～4カ所くらいに大火の話、もしくはトピックスというのは、入ってくるかなとおもうので、今皆さんがイメージされている、4ページ（くらいの分量）しか書けないということはないとおもっております。実際、総合計画などを見る限りなんですけど、特に「復興」のところはかなり（比重が）大きいなとおもっていて、ここは他の自治体に比べて、だいぶ（紙面を）割くことになるんじゃないかとおもってます。

あわせて、文化面というか、気持ちのところですか、「岩内魂」でしたっけ。前回のときにいわれたような話というのは、文化的なところに区分されるとおもうので、4ページしか書かないというのではなく、他の分野にもまたがり、係わってくるということで、理解いただければありがたいです。

【会長】

基本的には30年からということではありますけれども、今いただいた意見の多くは、（個人的にも）入れてもらいたいとおもうので、できる限り盛り込んでいただくという進め方ということで、納得いただいてよろしいでしょうか。

【A 委員】

大枠を決めるときに事務局の方に、僕は参加してないわけですよ。だから、突然、大火後の30年って、あまりにも唐突でたとえばそれを受け取って読むとするでしょう。「えっ」という感じがどうしたって残って、特に岩内は歴史があるまちですから。開基以来ね。それについて、「これ」、「これだけかっ！」っていう感じがどうしたってあるんですよ。現在の町制に繋がる短期間の歴史をまとめただけじゃないのっていう感じが、しちゃうんじゃないかなっておもってね。やっぱり歴史があるわけですから、それは歴史観というか、そういうものが反映されなきゃだめなんですよ。パンフレットみたいになっちゃうっていう、へたをすればね。会社なんかでもあるじゃないですか。そういう印象がどうしても強く出ちゃうんじゃないかなとおもうんですよ。やっぱり歴史っていうのは重いから、それをどっかで強調しておかないと、だからそれには4ページ、やっぱりページ数ももうちょっといるんじゃないかなというふうに。

ライターの方に聞きたいんですけど、どうでしょうか。

【ライター／磯】

他の自治体の仕事で、序章という部分で、たとえば昭和60年から編さん期間だとすると、古代からそれ以前の昭和50年代の部分を序章というかたちで、若干ページ入れましょうというところであるとおもうんですが、自分的な反省として、たとえば20ページ、30ページでまとめようとする、あれもこれもということになり、実際問題として70ページくらいになったりするんです。そうすると、なかなか本編に入り込んでいきづらくなるということが、多々起きてくるということがありました。それで、今回、あえて序章じゃなく、プロローグというふうに提案したのは、前史の部分を駆け足でまとめるというよりは、そこに入っていくための、さっきの「岩内魂」じゃないけど、そういうところにおいた、いわゆる〔 〕ところのプロローグってあるじゃないですか。そういうような、印象的な始まり方みたいなものを設定したらどうかなっていう。で、実際問題としては、たとえば漁業なんかにしても、分野別の、漁業のところ、当然、明治からの流れみたいなものというのは、ある程度記述してしかるべきとおもってるんです。それぞれの分野別でそうなるだろうという気はしています。今回はページ数の関係もありますけど、たとえば、前史の部分をもっと詳しく書くべきだと。じゃ、50ページ、100ページ必要ってことになると思いますよね。実際100ページは難しいとおもいますが、そうした場合に、それを巻頭に置くとなったら、巻頭に50ページの前史があるのってどうかなって、編集サイドとしては考えるとおもうんです。そうした際には、あるところでは、通史編の後にそれを配置したということもあります。そういう手法にたいし、やっぱり順序だって記述するべきじゃないかみたいな意見、それはやっぱり趣旨としては、昭和30年以降だからそれは真ん中に置きましょうみたいなものも当然出てくるとおもうんですよね。だから、今、先生がいわれたように、最低でも20ページくらい必要じゃないか、というのであれば、1部と2部の間にそれを配置するっていうのも、方向性として、検討する価値はあるとおもいます。ただ、20ページで前史をまとめるのは、実際書こうとしたら、あれもこれもって、必ずなってきましたんで、いちばん難しいのかなって気はしています。おそらく50ページを超えてきちゃうとおもうんですよ、前史をまとめようとする。

【会長】

大枠の進め方ということで、よろしいでしょうか。またいろんなところで詰めていきたいとおもいますので。

【事務局／村山】

補足というわけではないんですが、皆さんに承知いただきたいことは、今、ほんとうに入り口にいて、構成案を提示し、意見いただけてますけど、今回提出いただいた意見は、限られたもので、他にも、いろいろもっている方も多とおもうので、「こういうのがあってもいい」とか、そういった意見は、しはらくは受け付けることは可能ですので、承知おきいただきたいとおもいます。今年度中(3月いっぱい)に、カチッと決めなきゃならないものではないことを理解いただきたい。

【会長】

ただ、ボヤッとでもわかっておかないと。可能性を込めながら、今の感じで進んでいくという考えで皆さんよろしいでしょうか。

それでは、他に意見等はありませんか。

ただ今、A委員とB委員さんの意見について、ぎょうせいさんから意見をいただきました。それ以外のことで、意見、説明はありますか。

(なし。)

【事務局／村山】

それでは、引き続き、後半部分の検討事項について説明します。

いちばん最後のページ、170番・中程です。網のかかってない部分についてです。

個人名を出させていただいておりますが、何点か意見がありますので、これらについて個別に説明します。

項目 170

大火29年の年をゼロとして、通史編の一番最初に持ってきてほしい。／「前史にあたる部分について詳述しない」という点について、そうであるならば、初代「岩内町史」と「岩内史年譜」の刊行について、「序章」で詳しく取り上げてほしい。／通史編の各年に原子力発電所の記述が少ない。／「新岩内町史」ではなく、「岩内町史Ⅱ」にしてほしい。	4及び5に同じです。 原子力発電所問題に限らず、「岩内町史」に記述することが必要かどうかの判断になると考えます。 ネーミングについては、ふさわしいものとなるよう検討します。
--	--

項目 171

「岩内の歴史を象徴することがらというのであれば、「白水会」「越前衆とスケソ漁」「会津藩と築瀬文書」「東山遺跡」と「梅沢家」等の追加が必要。文字が小さくてもいいので、できる限り入れてほしい。	基本的に、重要事項についてはもれがないようにしたいと考えます。ただし、「文字を小さくしてでも内容を詰め込む」ことが、「読みやすい誌面づくり」に反しないのかは考える必要があるのではないのでしょうか。
--	--

項目 172

ライターの方が、岩内町の歴史に理解と敬意を持って、諸々の出来事を「蔑ろ」にせず言葉に綴ってほしいです。	もちろんです。
---	---------

項目 173

町史編さんの基板となるのは、岩内の歴史を振り返ってみたいという町民の志です。それが結晶した場所が岩内町郷土館です。郷土館50周年の歴史の中で集積された史料と資料こそが、新たな岩内町史の材料とならねばなりません。この事業が町の郷土館への関心の契機になることを願います。「広報いわない」に「町史編さんコーナー」が設けられるとよいのでは。	ご指摘のとおりです。この事業においては、郷土館の資料はもとより、町民の皆さんの理解・協力が何より大事だと考えます。 「町史編さんコーナー」については、賛成ですが、紙面スペースの問題があるため、正直難しいですが、検討したいとおもいます。(ホームページの可能性も含め)
--	---

項目 174

各種統計(男女年齢層人口、産業別人口、農業者数、漁業者数、主な助手の推移、漁獲量、農業生産額、業取引金額、100年を超える歴史ある商店等、歴代町長、町の議員数、職員数、物価指数と町職員の初任給の推移)	統計資料については、「読みやすい」「手に取ってもらえる」町史を目指すうえで、できる限り、写真同様掲載したいと考えています。
--	---

項目 175

ライオンズクラブ、ロータリークラブ、青年団体協議会等の歴史と活動。	公益的団体についても、必要に応じて検討します。
-----------------------------------	-------------------------

項目 176

十大ニュース、参考ホームページアドレスの記載。	十大ニュースというよりも、大事な事項をいかに取りこぼしなく取り上げるかが重要と考えます。
-------------------------	--

項目 177

近隣自治体との関係連携。	必要に応じて検討します。
--------------	--------------

【会長】

提出された意見について、提出者から補足などはありますか。

【C 委員】

私がいいたかったのは、本文に入れるということではなく、巻末でいいから資料編というかたちで、たとえばいろんな統計があれば〔 〕とともに必要だけでも、統計を調べられるアドレスを載せてもらいたいということ。あとから調べたいときに、どこから入れればいいか、を巻末でいいから載せてもらいたいということです。

【会長】

今の佐藤さんの意見について、何かありませんか。

【事務局／村山】

統計資料は、年々新しいものが積み重なっていくもので、本来であればホームページとかで公表されるべきものです。何年かに1回、統計資料を更新してはいるんですが、なかなか身近に感じられない部分もあるかとおもいます。巻末資料ということですので、そうした（スペース的な）余裕があるかどうかも含めて、検討したいとおもう。

【会長】

それでは、今の全体の説明について、委員の方から意見・質問はありますか。

（なし）

よろしいでしょうか。

それでは、ぎょうせいさんの方で、今の質問について見解などはありますか。

【ライター／磯】

たとえば、原子力発電所の記述が少ないとの指摘ですが、基本的に、まだ、資料集めに入ってない段階ですので、広報紙をもとに、年表・構成案を作成しているのも、当然、現段階では抜け落ちている部分が多々あるということと、分野別のところでも、足りないという指摘をいただきましたので、後々執筆するときの参考とさせてもらい、資料が収集できる限り、もれのないよう記述して

いければと考えています。

【会長】

まだ、スタートしたばかりということなので、まあ、皆さんの意見等があれば、参考としていただくということですね。

【ライター／磯】

そうですね、基本的に、この構成案に書いてあるように、項目自体が、これで決まりっていうようなものでもなく、具体例としてピックアップしてきたものなので、ここに書いてあることより、内容はどんどん、どんどん、増えていくっていうか、実際に資料を収集して、読み込むにつれて内容は、どんどん項目自体が増えていくのかなっていう、通常はたぶんそうなので、今回もそう考えています。

【会長】

わかりました。みなさん、理解いただけましたか。

【ぎょうせい／徳島】

ちょっと、補足なんですけど、今回の、スタート材料というのは、広報・議会だより、総合計画で、全体の流れが大きく書かれた資料をもとに、構成案を作成しました。広報は（皆さん）ご覧になっているので、わかるかとおもうんですが、分野によっては、ちょっと足りないところが出てくるものでして、これから（本格的に）資料収集に入るんですけど、役場からだけでは、ちょっと収集できない分野の資料っていうか、いわゆる広報に出てきてないところ、ちょっと不足しているところがあります。そこで、来年度以降、ちょっとお願い・協力になるんですけど、産業関係の資料（委員の皆さんが関係している団体などが持っている資料やその他の情報）などが、特に不足しがちになるとおもわれるので、なかなか探し出すのもたいへんだとおもいますが、その部分でも協力をお願いしたいとおもいます。

【ライター／磯】

この、トピックスのところ、いろいろ指摘いただけてますが、これらについても、通史編、分野別編、それぞれ2ページないし4ページで1つの項目を展開していくと、切りがいいというか、わかりやすいって話がありましたが、それでいった場合、どれを4ページにし、どれを2ページにするのか、現時点では決まってないので、ページの調整をすれば、指摘をいただいた項目も、資料さえあれば、たぶん、独立させて2ページずつくらい展開していくことは可能かなとおもっています。

【会長】

みなさん理解していただけましたか。それでは、産業面も含め、何か（掲載したい項目があって、関連する）資料（情報）ありましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

【事務局／村山】

では、和光市史のコピーをご覧ください。2ページ目ですが、これがいわゆる2ページ、4ページ立ての記事となっております。たまたま新庁舎の建設に関連する記事なのですが、岩内町でも新庁舎建設の事実があるので、こんなイメージかなということです。

3ページ目は、ページの最後のところに、縦に年表があるとおもいます。その年の月ごとのできごとです。先ほど、佐藤（英）さんの意見の中に、十大ニュースということがありました。おそらく、十大ニュースとなるようなテーマであれば、この年表に記載されてくるのかなとおもいます。これは、和光市のスタイルですから、岩内町がそのまま踏襲するわけではないのですが、もしこうしたかたちが、わかりやすいのであれば、良いところは真似させてもらってもいいかなと考えてます。

つぎのページは、トピックスということで、見開き2ページで書かれたものです。資料の分量によっては、これが、4ページ、6ページと増えていくイメージです。

【会長】

それでは全体を通して、何か意見・質問はありますか。

（なし）

ないようですので、協議・報告事項を終了してよろしいでしょうか。

【ライター／磯】

今、サンプルということで、和光市の年表の入り方の説明があったとおもいますが、年表を入れるとしたら、おそらくこのように、編年体の各年、腰の部分にその年の出来事を配置していく方法——今回はそれを想定したページ構成案になっている——と、別の方法として、年表を巻末に、一挙に、一度に全部載せるっていう方法もあります。その2つの方法が一応あるということですね。今回のページ構成案では、各年のところに一応入れる仕立てにはなっているんですが、そこはちょっと、議論の余地があるのかなとおもいます。

【会長】

これは、今決めてしまった方がいいようなものなのか、全体が見えてきてからになるのか。

【ぎょうせい／徳島】

今じゃなくてもいいです。大丈夫です。

【ライター／磯】

ただ、巻末に入れる際は、全体のページ数との兼ね合いが出てきてしまうので。

【ぎょうせい／徳島】

他のお客様のところをいくつか拝見した中では、巻末に年表を入れる場合、編さん期間や1年にどれくらいの項目を入れるかによって、当然ページ数が変わってくるんですけど、ひとまわり小さいB5 ぐらいのサイズのお客様だと、30から50ページぐらい使ってるんですね。やっぱり巻末に載せるとなると、詳しく載せたいという気持ちが強くなるためなのか。年表の使い方といいま

すか、どうかたちが、町民の皆さんにとって使いやすいのか、活用しやすいのかというところの結論自体はもう少し先で大丈夫なんですけど、ゆくゆくはそのところも決めることになるということをお含みおきいただきたいです。

【D 委員】

私は、漁業協同組合（関係）なんですけど、確かに、水産業に関しても（項目は）出てるんですけど、常々思ってたのは、岩内といえは、“海”、“魚”ということなんだけれど、やはり水産加工業とかもたいへん苦慮してる、歴史の中においては。その中で、「浜の母さん」なり、加工屋に行ってる女工さんや、その母さんたちなんだけども、その母さんたちには現金収入、自分の自由になるお金がある。父さん（夫）は父さんで稼いでいる。そういう歴史があって、（そのためか）岩内には髪結い、パーマ屋さん、あと呉服屋さん、洋品店など（女性相手）の店がね、そうした店の件数が、人口の割には異様に高い。今でもパーマ屋さんは多いんだよね。確かに岩内は水産加工業で、正史としてはちゃんと、組合ができたとかあるんだけど、そのうらで（経済の一部を）支えていたのは、「浜の母さん」なり、加工屋の母さんたち（の消費行動）なんて、そのへんに、ちょっと、ライトを当てていただきたい。さっきいったとおり、自由になる金をたくさん使って、商業の方にもだいぶ貢献してきたというような、そういう流れがあるんで、何かそういうくくりのトピックスとか、そういうのもちょっと出してもらえればおもしろいかなとおもう。

私、昭和40年代は小学生だったんだけど、同じクラスに母子家庭の友人が4、5人いたんです。他のクラスに何人もいたんですよ。そんな母子家庭の友人の父さんの命日が、ほぼほぼ同じなんです。船がどんと沈んじゃって。でも、その友人たちは普通に成人して、ちゃんと（した大人になって）稼いでますよ。それをバックアップしてんのは、制度があったとはおもうけど、母さんたちが加工屋さん行って稼いで（子どもたちを育て上げたから）。そういうように、すごくバイタリティーがあった時代、そういうことも、ちょっとピックアップしてもらえればなあという、おもいが正直あります。

【A 委員】

年表を巻末に入れるかどうかでいうと、今まで何回か、「岩内史年譜」が出てますよね。あれは継続するのか、あるいは、あらたに作るのか、別立てで「岩内史年譜」の継続するのは考えておられるのかどうかということね。あれは主体がどこかはっきりしない。

【会長】

（主体は、）「岩宇郷土史研究会」です。

【A 委員】

ということは、新しい岩内町史ができれば、巻末の内容の延長ということで。

【会長】

必要とあれば、出したいとはおもっています。構想はあります。町史は限られているので、それを補足するのが郷土史研究会の仕事かなとおもってるんですけども、なにせ年齢層が上がりきっ

てしまっていますので。

【A 委員】

年譜編というのは別刷りで作ってる場合もけっこうあるんですよね。年譜は、やっぱり使いやすいです。テーマ別に分断されていると使いにくいでしょ。だからそういうことがあっていいかなと。

【会長】

それも踏まえて、次回決めてかないと、つぎへ進めないとおもうので。ただ、(町史を) 補足するようなものは、違う組織で作れるのではないかという気持ちでいますので、それも含みおきのうえ、進めていきたいとおもいます。よろしいでしょうか。

【E 委員】

先ほどのD委員の話と関連するんだけど、岩内町には「ガンガン部隊」というのがあったんだけど、ご存じですか。これはですね、漁師の奥さん方が、とれた魚を山麓方面や、共和町に売りに歩いたというので、できれば、「浜の母さん」の項目の中の一部として、取り上げてもらいたい。

「飢餓海峡」って映画、ありますよね。その中にも、岩内駅から出て行く「ガンガン部隊」の人たちが出てくるんですよ。

「ガンガン」というのは、カンカンがなまったものだとおもいます。缶に魚を入れて背負った一行がガンガン部隊なんです。

【会長】

副町長、(こういった話は) こういう場(審議会) じゃなく、もっとくだけたところであると、たくさん良い話を拾えるような感じがするんですけど、どうですか。1度、早いうちに企画をして、使える、使えないは別として、やってみるといのも1つかなと、ちょっと今おもってます。

【副町長】

まあ、ライターさんも入っていただいてね、ヒントになるのであれば。

【ライター/磯】

今、「浜の母さん」とか、「ガンガン部隊」とかの話が出てきたけど、「生き証人」(や関係者) がいれば、ヒアリングというか、そういうのを経た方がトピックスの原稿を書くときには、たぶん、よりリアルなものになるのかなとおもいました。

【C 委員】

もう、(当事者は) いないんじゃないかな。

【E 委員】

ただ、親がやってたっていう(人は) いるとおもうから、それなりにわかるとおもう。

【事務局／村山】

写真くらいはあるかも知れませんね。

【E 委員】

探せば、どこかから出てくるとおもうね。

【事務局／村山】

町としても、この編さんの動きに合わせて、町民の方に呼びかけを考えてます。資料とか、写真があれば、是非提供してほしいという呼びかけを考えてますので。

【会長】

たくさん意見いただきました。他に意見・質問はありませんか。

もし何か思いつきましたら、ほんとうに、役場・事務局のまで申し出てください。つぎに反映させたいとおもいます。

(なし)

ないようですので、協議・報告事項を終了してよろしいでしょうか。

(はい)

それでは、これで終了します。